この1992年11月に完成した45,000人を収容する観覧席の備わった巨大な構造物は、1998年の長野オリンピックのスキージャンプ競技会場として使用されました。世界中から集まったアスリートが、サイズの異なるノーマルヒル (318m) とラージヒル (385m) の2つのジャンプ台で競い合い、その結果、日本のオリンピックチームは金メダルを2つ獲得しました。

日本の北アルプスのすぐ麓に位置する白馬ジャンプ競技場は、今日では、1年中行ける白馬八方尾根屈指の人気スポットとなっています。興味のある方は、ふたつのジャンプ台の間にあるエレベーターに乗ってジャンプ台へとアクセスできるタワーで降りることもできます。エレベーターに乗って上に向かっている間、エレベーターの天井が通常のそれよりも高いことを不思議に思われるかもしれませんが、この高さは、長いスキーを持って入るのに必要なのです。展望デッキからは周辺地域の素晴らしい風景を楽しむことができると同時に、アスリートがジャンプする直前のスリル満点な雰囲気を楽しむことができます。タワーとジャンプ台をつなぐ通路の床はグレーチングでできているため、足元の風景も楽しむことができます。

このスタジアムは時折スキージャンプのプロがトレーニングに使っていることがありますが、ジャンプ台の人工素材の表面が常に滑りやすくされているため、夏季でもジャンプの練習をすることができます。

ジャンプ台を散策した後は、競技場の反対側の高原へと移動してオリンピック聖火台を眺めましょう。オリンピックの聖火は、アスリートを勇気づけるべく、ジャンプ台の上からでもはっきりと見えるようになっていました。その隣の記念碑は、1998年長野オリンピックで獲得した金メダルが通算100個目であるを称賛し、記念するために大会開催後に新たに加えられたのです。